

石巻専修大学

http://www.senshu-u.ac.jp/shimonaki/

代表電話番号
0225 (22) 7711
広報専用FAX
0225 (22) 7809

優勝

快走！ 3区間で区間賞

初出場で初優勝。第32回宮城県女子駅伝競走大会が11月22日、大崎市(旧沼津)の里公園で開かれ、石巻専修大学(以下専修大)の女子競走部が3区間で区間賞を獲得するなど、昨年の優勝タイムを29秒短縮、創部1年目の快挙に部員たちの笑顔がはじけた。

大会には2連覇中の東北福祉大学をはじめ、県内の大学や高校など17チームが出場。

女子競走部は1区目の川崎美祈さん(人間1・山形県山形城北高)が首位の背中を必死で追い、1秒差の力走でたすきをつなぐと、2区目の牧野あやさん(経営1・岩手県北上翔南高)が区間賞の走り

初出場 女子競走部



北新報

河北新報



原田主将が笑顔でゴール

りて首位に。続く3区間のに向けて冬季は走り込み、補強運動の強化を行い、いい結果を残せるように頑張ります」と抱負を語った。

川崎美祈さんが富士山女子駅伝(静岡県富士市、富士宮市)12月30日10時スタート、7区間43・4時、フジテレビ系列(生放送)の東日本選抜のメンバーに選出された。同大会は全国18大学と選抜3チーム(東日本、西日本、静岡)が出場するトップレベルの大会。力走に期待したい。

理事長にV報告



日高理事長(左端)に優勝を報告した原田主将(中央)と泉田監督

12月4日には、日高義博理事長に、泉田利治監督と原田主将が優勝報告した。優勝カップと賞状を手に原田主将が活動の成果を伝え、「さらに記録を伸ばせるように頑張ります」と一層の飛躍を誓うと、日高理事長は創部1年目の奮闘をねぎらうとともに激励の言葉を贈った。

みやぎふるさとCM大賞

舛井ゼミ作品 おもしろ賞

東日本放送(KHB)が主催する「2015みやぎふるさとCM大賞」の発表審査会が11月26日、仙台市のイズミティ21で行われ、経営学部・舛井道晴ゼミがNPO法人Don't Bankみやぎとともに受賞した。

CMを制作した千葉さん、川名さん、小原さん(左から)

制作した石巻市の魅力が伝わるCMがおもしろ賞を受賞した。

同CM大賞は手作りCMで地域の魅力を表現し、地域の良さを取り戻すもの、14回目を迎える今年も29の作品がエントリー。情報技術をテーマにする舛井ゼミ

はゼミ活動の一環として昨年からのCM制作に取り組み、石巻市の代表作品として2年連続のエントリーを果たした。

今回、参加した舛井ゼミ生は▽川名裕貴さん(宮城県聖和学園高)▽小原裕貴さん(宮城県東北高)▽千葉裕規さん(宮城県仙台大志高)の3人。

経営学部3年次生3人。映像制作、編集技術を生かした。

CMの舞台は、牡鹿半島の先端にあり「ネコの島」として近年、旅行者を集める田代島。演技の勉強をしていたという菅野あゆみさん(人間1・宮城県クランク記念国際高)に出演を依頼し、猫に扮した菅野さんと島の猫たちが「共演」するユニークな作品に仕上げた。

「学生らしく元気な作品を目指した。特に冒頭のシーンはインパクトがあって面白く、そうしたい」と話した。

作品は2016年12月に計20回、KHBで放送される。

硬式野球 地域イベントで子どもらと交流



硬式野球部が石巻地域で行われた2つのイベントに参加し、野球を通じて地域交流を図った。

11月14日、石巻市民球場と石巻工業高校野球グラウンドで実施された

には、酒井健志監督と部員30人が参加。石巻地区6高の高校球児約100人を相手にキャッチボールやバッティングなどを教える機会があった。

交流会は、石巻市民球場に催された「石巻野球フェスティバル」には、高橋良希主将(経営3・宮城県東北工業大学高)2現・仙台城南高から10人がボランティアで参加した。

交流会の石巻市民球場には、小中学校のスポーツ少年団のほか、野球未経験の子も約100人と保護者らが集まった。ベースランニングやストレッチアウトなどの練習メニューや心構えなどを説明した。

同日に開かれた交流会は、子どもたちと交流し石巻野球フェスティバル

商品発表会 & 試食会



経営学部・石巻慎士ゼミが、発売から2年間で17・5万食を売り上げた大好評の「石巻・飯野川発祥の地」カニだしラーメン」に続き、新商品として、地域連携開発商品「鳥取・

境港発カニだしラーメン」を開発。試験販売(本紙10月号既報)を経て、11月26日に商品発表会・試食会が開催された。会場となった本学キャンパスと鳥取県境港市

をインターネット回線でつなぎ、ゼミ生や関係者が開発の経緯と、商品の特徴、販売計画などを説明した。その後、出席者に「カニだしラーメン」を振る舞い、商品をPRした。

「カニだしラーメン」の特徴は、カニ風味のあっさりとしたスープと、低かん水のストレート麺。スープは境港で水揚げされたベニズワイガニのゆで汁を使用し、麺は宮城県産の小麦粉(ユキチカラ)に石巻産のサバの焼成骨を配合した。両市の産学・異業種が連携し、それぞれの地域資源と、地元企業の技術力を結集した一品となった。

生麺にスープがついた家庭向け商品(2食入り)は税込み500円前後で販売。12月初旬から市内の道の駅「上品の郷」のほか、宮城県内で発売されている。

石巻ゼミは、境港市の関連企業、NPO法人など、石巻市の製麺会社などの間をコーディネート。試食を繰り返して、スープに合う麺の太さを提案したほか、鳥取や東京で行われた試験販売や消費者調査も担当した。

藤原優真ゼミ長(経営4・岩手県専大北上高)は「商品化に至るまで苦労があったが、完成してとてもうれしく、やりがいを感じました。この商品が石巻・境港の地域活性化のきっかけになればと思います。これからも地域に貢献していきたいです」と抱負を語った。

水野准教授 研究奨励賞

石田記念財団



理工学部機械工学科の水野純准教授(マイクログラフ)が、一般財団法人石田記念財団の研究奨励賞を受賞した。写真は、研究のテーマは「3DプリンタによるSME M S (Submit) Electro Mechanical System) デバイスに関する研究」。

同財団は宮城県内の情報通信産業分野の研究者や教育者の支援・育成を目的に設立され、同賞は進歩発展に貢献が期待される研究に贈られる。